

飯沢未央

“external heart” (2006年, 表表紙)

基盤: AKI-PIプログラマー, 使用アプリケーション: PICProgramerV3, 心臓素材: フォームラテックス, FRP, シリコン (制作: 自由廊)

#### 作者のことは

指に繋がれた脈拍センサーを介して測定される鑑賞者の脈拍が、独特の生々しい質感に仕上げられた心臓のオブジェに伝達される。心臓のオブジェにはモーターが内蔵され、脈拍に同期する形で心臓のオブジェが目の前で「歩く」のだ。したがって鑑賞者は、自分の脈拍スピードで走る心臓に引っ張られながら歩くことになる。デバイスを指から外すまで、心臓はそのまま走り続けるようにシステムが組み込まれている。心臓の数は2つあることで、他者の脈拍と比較することが出来る。“external heart”を通して、人は心臓を体外に取り出して引っ張られる体験をし、自分の心拍とも「対面」することが出来るのだ。

この作品は(広義の)体内時計への興味から制作した作品である。私たちの生命時間の源泉の一つは心臓の拍動である。心臓の動きが止まれば、当然のことながら生体としての私たちの生命は終わる。その終わりに向かってリズムを刻み続ける心臓を、私たちは普段あまり意識することがない。そのように内部で私たちの時間を支配する心臓を取り出し、走らせ、それに追従する私たちは何と可笑しく、またアイロニカルに見えるだろうか。

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=nSO5iglV9mM>



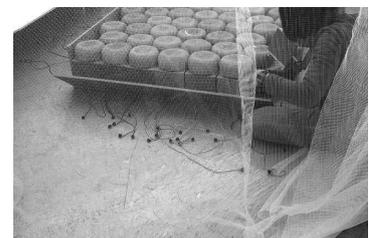
“elastic cell” (2007年, 裏表紙)

細胞素材: フォームラテックス, FRP, シリコン (制作: 自由廊), その他金属、木材など, 使用アプリケーション: processing, pivprogrammerV3, 使用アクチュエータ: DCモーター

#### 作者のことは

圧力センサーが組み込まれた多数の「細胞」で構成されたインスタレーション作品。46個のユニットで構成されており、臓器をイメージした床に埋め込まれている。細胞はゆっくりとうごめいており、体験者がどれか一つの細胞を押すと、圧力を感知して激しく動き出す。それに応じて、隣り合った細胞もその圧力を感知することで動きが早くなり、全体に激しい動きが連鎖していく。細胞を押したのち、速く動いていた細胞は徐々に動きが遅くなり、最初のゆっくりとしたリズムに再び戻っていく。細胞は押される強さにより、動く速度が変わる。” elastic cell” は生命体を構成する「自己組織化」をテーマに制作した作品である。自己組織化は、生物のように他からの制御なしに自分自身で組織や構造をつくり出すことだ。この作品では、体験者が細胞のリズムを乱す要因となる。細胞に触れ、戯れることで、身体の内側のうごめきを別の角度から感じられるのではないだろうか。

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=PZe7BH9xjSM>



飯沢 未央 [Mio I-zawa] <http://iimio.com/bio/>

2005年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業、2007年同大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。時間と生命についての、哲学・科学・美学的リサーチと考察を背景として、電子デバイス、映像作品、空間インスタレーションなど、多彩な作品を制作している。前橋アートコンペライヴグランプリ (2005)、JEANS FACTORY ART AWARD優秀作品賞 (2007)、神戸ビエンナーレ優秀賞 (2007)、文化庁メディア芸術祭審査員推薦作品 (2007) など受賞